

2023 年度 2・3・4 年次アンケート

本学では新年度のオリエンテーション時に、新 2 年次、新 3 年次、新 4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「在学生アンケート」と表記）を行っている。但し、コロナ禍中であった 2020～2022 年度は、オリエンテーションをオンラインで行っていたため、各授業等で実施していた。今年度は対面で行う専攻が増えたため、オリエンテーション時での実施に戻した。このアンケート調査は、在学生が本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。本報告書では、主な項目の分析結果を中心に報告する。なお、回答人数が少なくなかつ旧課程の専攻である史学専攻（2 名）、英語文学文化専攻（1 名）、言語科学専攻（1 名）は、分析の対象から除いた。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：Web 調査

対象：東京女子大学に在籍している 2～4 年次学生、2864 名（5 月 1 日時点、休学者は含む）

（うち：2 年次学生 1002 名、3 年次学生 921 名、4 年次学生 941 名）

調査期間：2023 年 3 月 16 日～2023 年 6 月 4 日

有効回答数：2364 名

（うち：2 年次学生 933 名、3 年次学生 738 名、4 年次学生 693 名）

有効回答回収率：82.5%

（うち：2 年次学生 93.1%、3 年次学生 80.1%、4 年次学生 73.6%）

※ 本年度は例年とは異なり、新年度のオリエンテーションを 4 月初頭から 3 月に前倒して実施した。しかしながら、学年を尋ねる設問は 4 月以降（新年度）のアンケート実施を前提とした学年を選択肢に設定していた。そのため、3 月末時点で回答を終えた学生（回答率 38.4%）の中には、3 月時点での学年を選択した者が例年より多かったと考えられる。特に、哲学専攻 2 年次、経済学専攻 2 年次、心理学専攻 2 年次では、回収率が 100%を超える現象が確認された。この事実を踏まえ、オリエンテーションの実施日時と学年を基に、前年度の年次を選択した可能性が高い 34 名（国際関係専攻 3 年次 7 名、同 4 年次 20 名、コミュニティ構想専攻 3 年次 5 名、経済学専攻 4 年次 2 名）のデータを訂正した。

調査項目：2022 年度までに実施してきた調査結果を踏まえ、「学習」、「学生生活」、「図書館」、「課外・学外の活動」、「その他」などの項目で構成している。

本報告書では、2 年次、3 年次、4 年次などの表記が出てくるが、在学生アンケートは、年度初め（今年度は前年度の 3 月）に実施しているため、例えば、2 年次の授業に対する満足度は、当該学生が 1 年次であった時の授業の満足度を示す。同様に、3 年次の授業に対する満足度は当該学生が 2 年次であった時の授業の満足度、4 年次の授業に対する満足度は当該学生が 3 年次であった時の授業の満足度のことである。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ (small)、 $\eta^2 = .06$ (medium)、 $\eta^2 = .14$ (large) を用いた。

なお、参考のため過去5年間の回収率（2～4年次学生全体）を表1に示しておく。

表1 年度別に見た2～4年次アンケートの回収率

2018年度	2019年度	2020年度 (Web調査)	2021年度	2022年度 (Web調査)	2023年度 (Web調査)
84.3%	84.9%	70.0%	82.8%	81.5%	82.5%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラムの科目の授業」、「学科科目（専門）の授業」の3つのカテゴリー別に、過去1年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合が全てで8割を超えていることから、授業に対する満足度は全般的に高いと言える。特に「授業全般」、「学科科目（専門）の授業」では、9割を超えた。

表2 授業に対する満足度

	全く満足 していない	満足 していない	どちらかと 言えば満足 していない	どちらかと 言えば満足 している	満足 している	大変満足 している	履修 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	0.6 (14)	1.8 (41)	7.0 (160)	35.4 (810)	44.3 (1015)	10.9 (249)	
全学共通 カリキュラムの 科目の授業	0.5 (11)	1.7 (40)	7.3 (167)	32.9 (752)	42.0 (961)	14.0 (321)	1.6 (37)
学科科目 (専門)の授業	0.7 (16)	1.6 (36)	5.1 (117)	26.4 (604)	43.9 (1006)	21.0 (480)	1.3 (30)

注：各項目について欠損値（75人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、学年別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかといえば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1 と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3～表5は、専攻別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。全ての項目かつ全ての専攻で授業満足度の平均値が4.0を超えた。いずれも効果量は小さく、専攻による大きな違いは見られなかった。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.42	1.023	367	$\eta^2 = .018$
哲学	4.82	0.784	109	
日本文学	4.57	0.945	236	
歴史文化	4.63	0.959	217	
国際関係	4.52	0.928	279	
経済学	4.46	0.799	176	
社会学	4.55	0.744	126	
コミュニティ構想	4.50	0.836	135	
心理学	4.72	0.840	204	
コミュニケーション	4.44	0.761	285	
数学	4.68	0.777	79	
情報理学	4.33	0.755	76	
合計	4.54	0.887	2289	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.57	1.078	367	$\eta^2 = .009$
哲学	4.90	0.892	109	
日本文学	4.67	0.951	236	
歴史文化	4.62	1.021	217	
国際関係	4.68	1.002	279	
経済学	4.56	0.892	176	
社会学	4.64	0.862	126	
コミュニティ構想	4.64	0.833	135	
心理学	4.64	0.959	204	
コミュニケーション	4.50	0.867	285	
数学	4.80	0.868	79	
情報理学	4.54	0.999	76	
合計	4.63	0.959	2289	

表5 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.68	1.094	367	$\eta^2 = .027$
哲学	5.16	0.935	109	
日本文学	4.86	0.933	236	
歴史文化	4.82	1.069	217	
国際関係	4.70	1.058	279	
経済学	4.73	0.803	176	
社会学	4.82	0.833	126	
コミュニティ構想	4.74	0.977	135	
心理学	5.14	0.899	204	
コミュニケーション	4.74	0.837	285	
数学	4.81	0.818	79	
情報理学	4.43	0.884	76	
合計	4.79	0.971	2289	

表6～表8は、学年別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。授業満足度に関する全ての項目において、4年次生の満足度が最も高くなった。しかし、効果量を見ても分かるように、学年間に大きな違いは見られない。

表6 学年別に見た「授業全般」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.47	0.883	908	$\eta^2 = .008$
3年次	4.51	0.872	715	
4年次	4.66	0.898	666	
合計	4.54	0.887	2289	

表7 学年別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.50	0.927	908	$\eta^2 = .015$
3年次	4.64	0.942	715	
4年次	4.78	0.998	666	
合計	4.63	0.959	2289	

表8 学年別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.68	0.983	908	$\eta^2 = .012$
3年次	4.82	0.933	715	
4年次	4.93	0.974	666	
合計	4.79	0.971	2289	

次の図1～図3では、授業満足度について、学科別の違いを学年別に示す。すべての項目で2年次より4年次の得点が高い傾向があった。

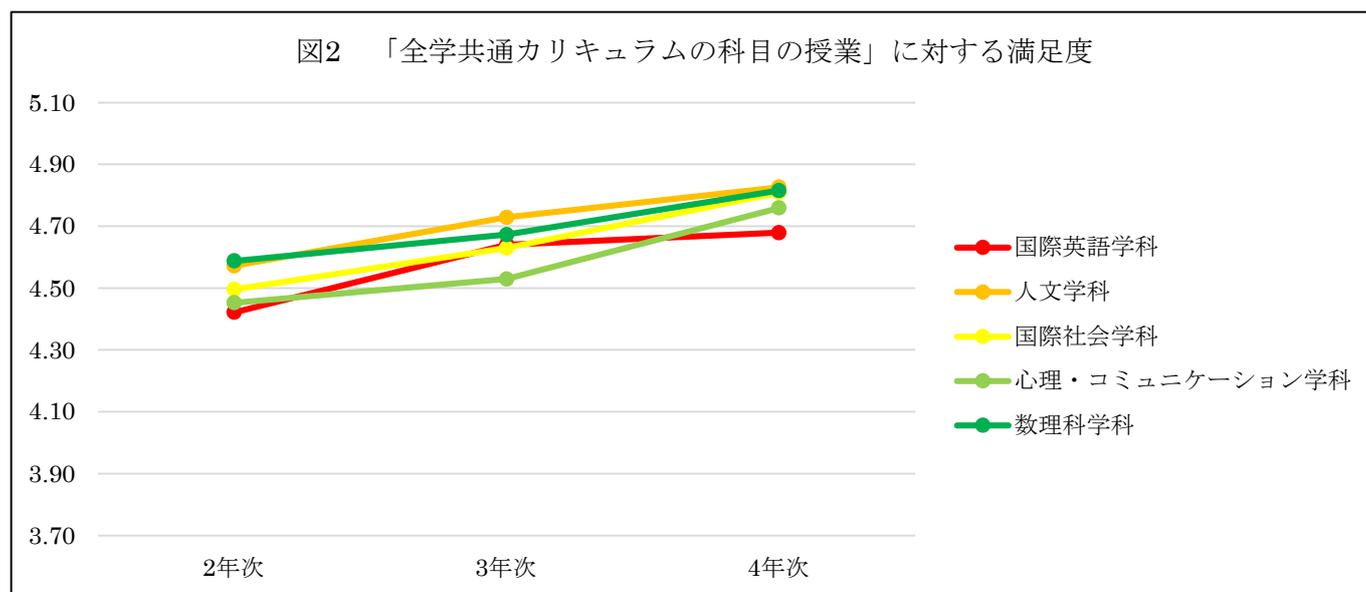
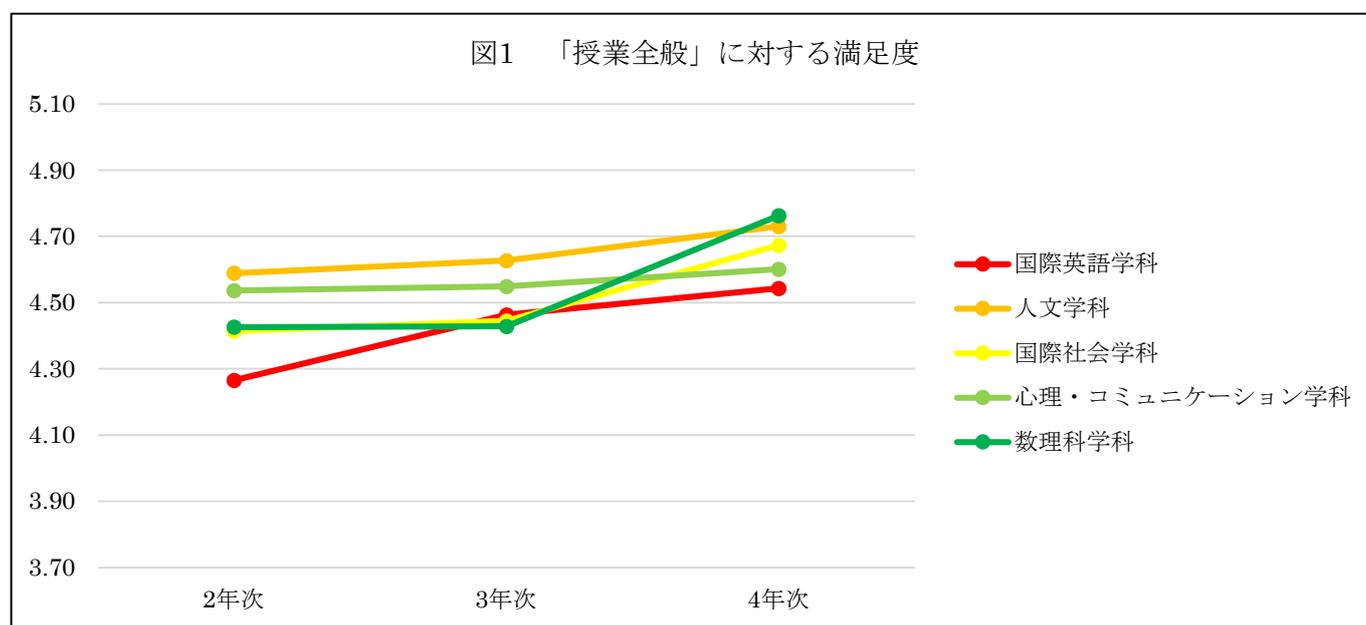
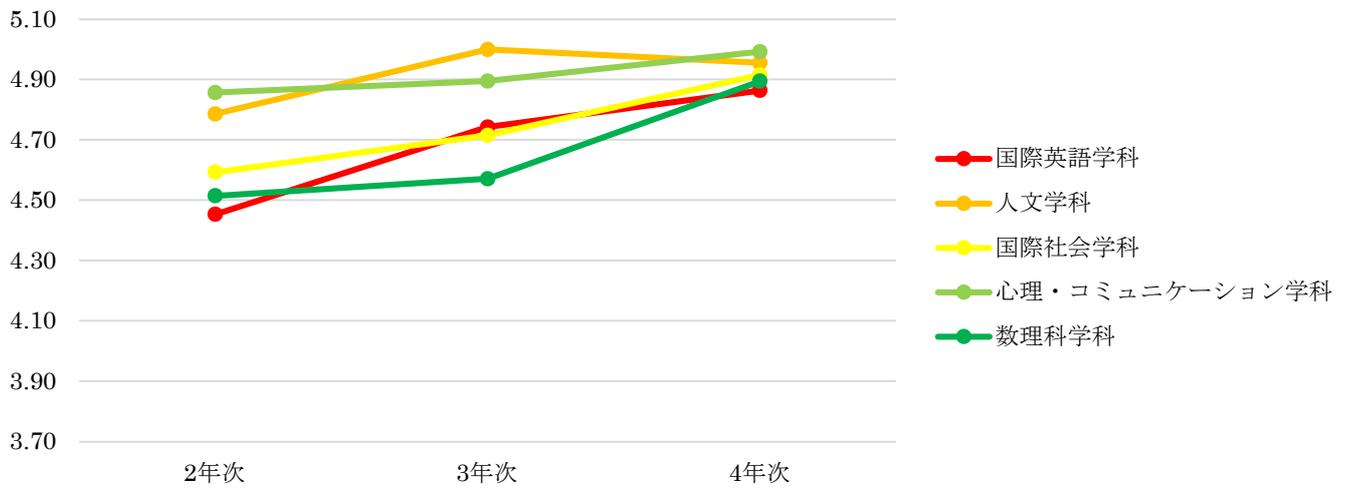


図3 「学科科目（専門）の授業」に対する満足度



(2) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

「昨年1年間の学びを通じてどのようなスキルを身につけることが出来たと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解する力」の10項目について、「全くそう思わない」(=1)から「非常にそう思う」(=6)の6件法で尋ねた。

その結果が図4である。「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の4項目は、肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が8割を超えた。その他の項目でも、肯定的な回答が7割を超えており、多くの学生がこれらのスキルを身につけることができたと考えている事が分かった。

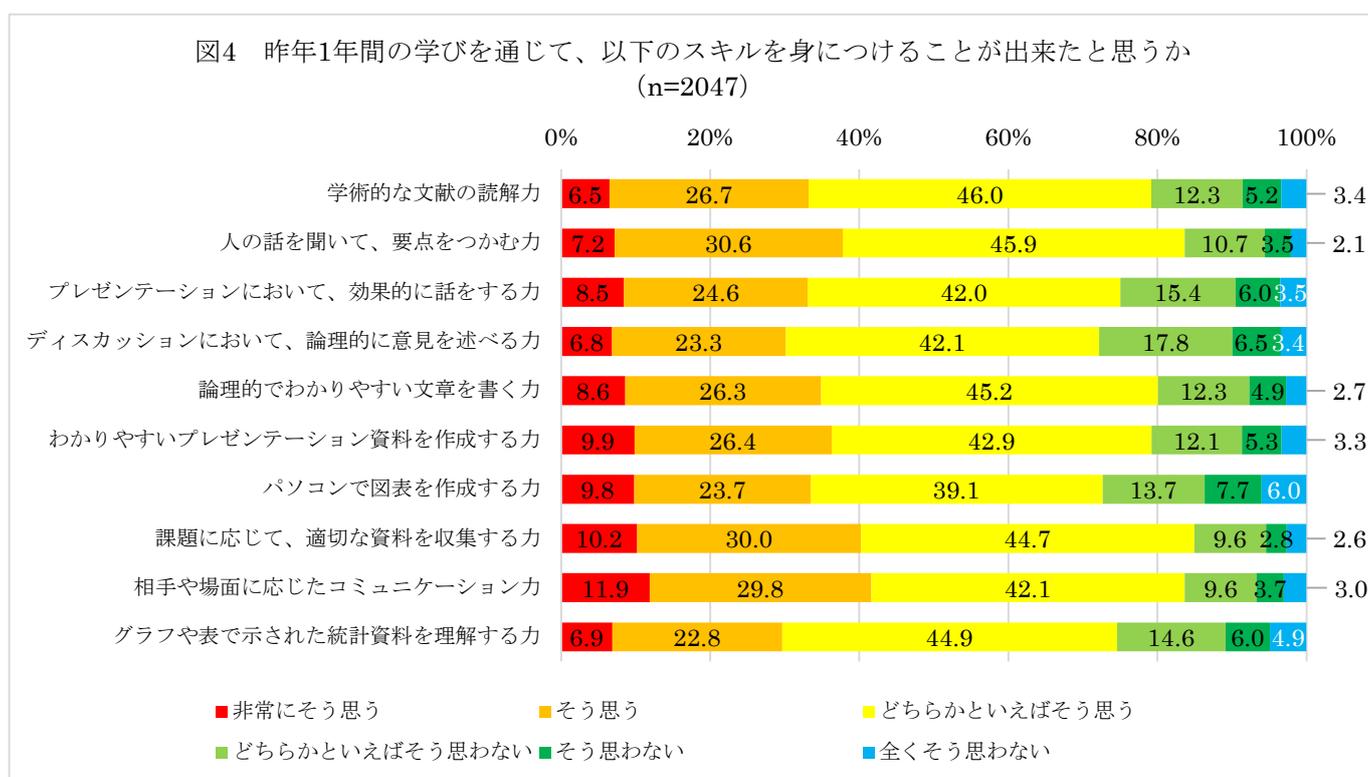


図4に示す10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.10、SD=.862、最大=6、最小=1；因子分析で次元性も確認。α=.926)として、以降の分析に使用した。

専攻別にスキル総合得点を見ると（表 9）、平均値が最も高い専攻でM=4.23、最も低い専攻でM=3.88 となった。効果量は小さく ($\eta^2 = .010$)、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくはない。スキル総合得点は2016年度の報告書より記載しているが、全体平均が初めて4点台に達した昨年2022年度よりも0.07ポイント上昇した。スキルの向上を実感している学生が増えている。

表 9 専攻別に見た「スキル総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.07	0.948	325	$\eta^2 = .010$
哲学	3.88	0.888	92	
日本文学	4.02	0.925	215	
歴史文化	4.05	0.845	201	
国際関係	4.12	0.821	253	
経済学	4.18	0.761	151	
社会学	4.22	0.783	117	
コミュニティ構想	4.21	0.841	132	
心理学	4.23	0.768	171	
コミュニケーション	4.09	0.790	253	
数学	4.02	0.879	70	
情報理学	4.07	1.126	67	
合計	4.10	0.862	2047	

学年別にスキル総合得点を見ると（表 10）、4年次の平均値が他学年より高くなった。効果量は小さく ($\eta^2 = .001$)、学年間におけるスキル総合得点の違いは大きくない。

表 10 学年別に見た「スキル総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.10	0.816	820	$\eta^2 = .001$
3年次	4.06	0.873	639	
4年次	4.14	0.909	588	
合計	4.10	0.862	2047	

(3) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

昨年1年間の学びを通じて、以下の図5に示される14項目の能力を身につけることが出来たと思うかどうかを尋ねた結果を示す。ほとんどの項目で肯定的な意見が7割を超えた。「数字やデータに基づいて物事を考える力」と「率先してグループをまとめリードする力」が例年同様、他の項目と比べて低かったが、前年度からそれぞれ1.0ポイント、3.9ポイントの上昇が見られた。2022年度から開始したデータサイエンス副専攻と2024年度入学者から全学必修化によるAI・データサイエンス教育の効果を期待したい。

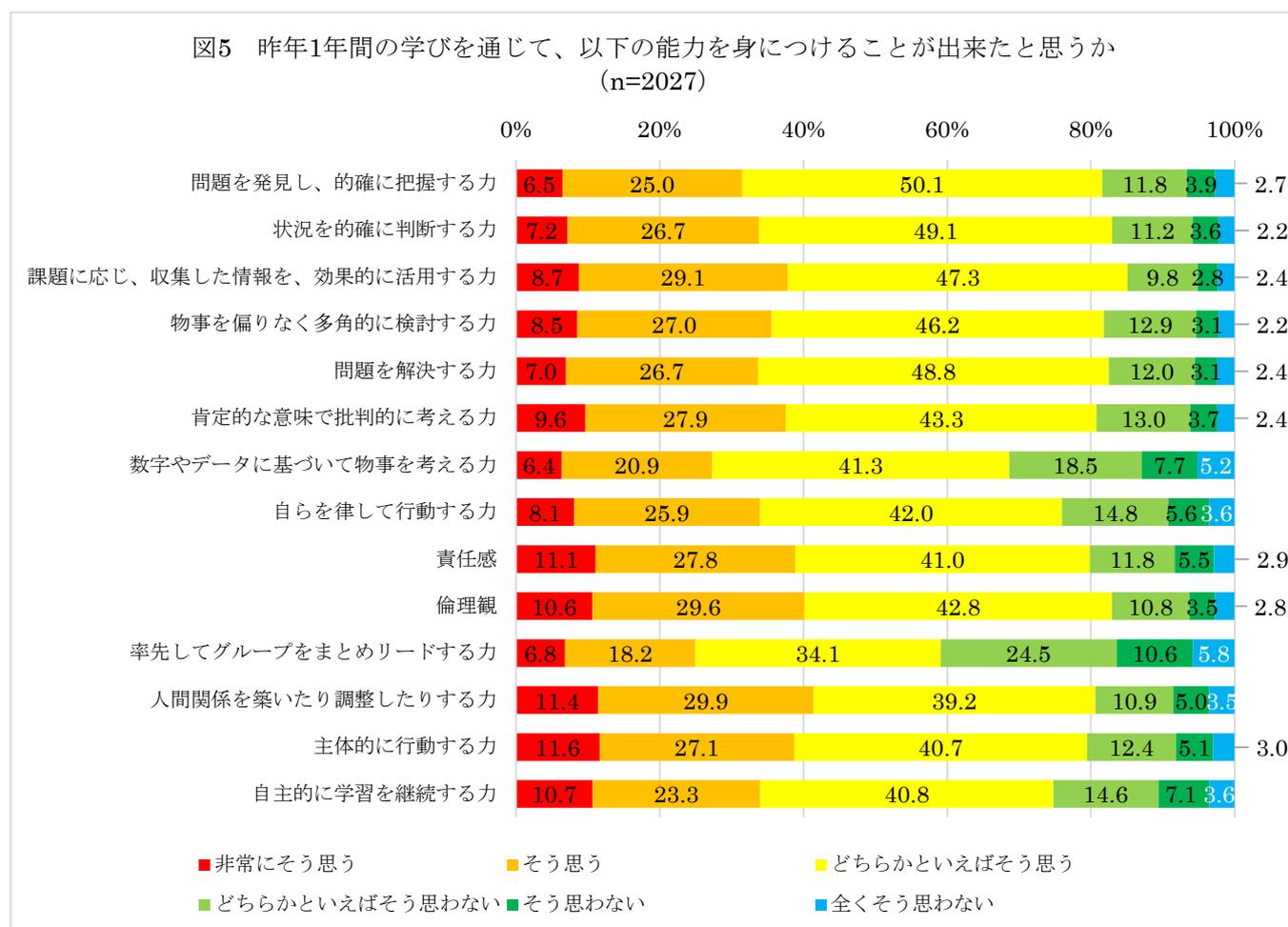


図5に示す14項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.11、SD=.859、最大=6、最小=1、因子分析で次元性も確認。α=.952)として以降の分析で用いた。

能力総合得点を専攻別に見ると（表 11）、最も高い専攻で M=4.24、最も低い専攻で M=3.99 であった。効果量は小さく ($\eta^2 = .007$)、専攻間の差は大きくない。

表 11 専攻別に見た「能力総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.09	0.964	322	$\eta^2 = .007$
哲学	3.99	0.914	91	
日本文学	4.00	0.946	214	
歴史文化	4.07	0.883	201	
国際関係	4.21	0.739	251	
経済学	4.15	0.745	149	
社会学	4.24	0.744	115	
コミュニティ構想	4.18	0.897	132	
心理学	4.12	0.779	169	
コミュニケーション	4.06	0.803	247	
数学	4.13	0.728	69	
情報理学	4.09	1.108	67	
合計	4.11	0.859	2027	

能力総合得点を学年別で見ると（表 12）、4 年次、3 年次、2 年次の順で能力総合得点が高い。効果量は小さい ($\eta^2 = .006$)。

表 12 学年別に見た「能力総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.06	0.810	814	$\eta^2 = .006$
3 年次	4.07	0.889	631	
4 年次	4.21	0.886	582	
合計	4.11	0.859	2027	

(4) 身についた技術に関する項目の集計・分析結果

図6は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術13項目の分析結果である。半数以上の項目で、肯定的な回答の割合が8割を超えた。「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」が例年同様、他の項目と比べて特に低かったが、前年度から5.8ポイントの上昇が見られた。

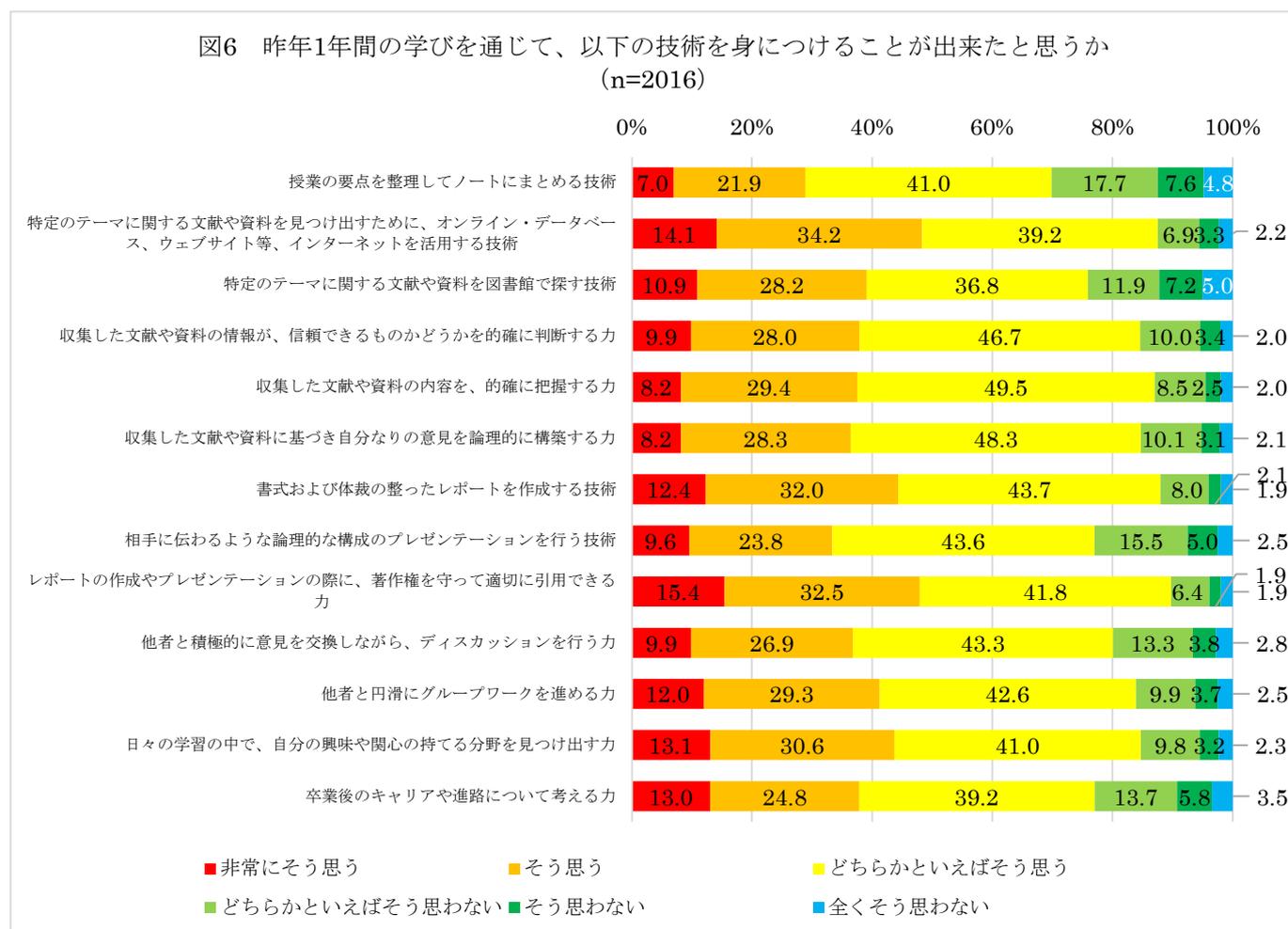


図6に示す13項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「技術総合得点」(M=4.23、SD=.823、最大=6、最小=1、因子分析で次元性も確認。α=.940)として以降の分析で用いた。

技術総合得点を専攻別に見ると（表 13）、最も高い専攻で M=4.36、最も低い専攻で M=4.07 であった。効果量は小さく ($\eta^2 = .006$)、専攻間の差はさほど大きくないことが分かる。

表 13 専攻別に見た「技術総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.27	0.878	318	$\eta^2 = .006$
哲学	4.07	0.908	91	
日本文学	4.16	0.978	214	
歴史文化	4.22	0.860	201	
国際関係	4.32	0.737	251	
経済学	4.21	0.751	149	
社会学	4.36	0.749	114	
コミュニティ構想	4.24	0.761	130	
心理学	4.24	0.729	168	
コミュニケーション	4.20	0.731	244	
数学	4.22	0.715	69	
情報理学	4.16	1.067	67	
合計	4.23	0.823	2016	

技術総合得点を学年別で見ると（表 14）、4 年次の技術総合得点が一番高くなった。効果量は小さい ($\eta^2 = .003$)。

表 14 学年別に見た「技術総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.21	0.779	812	$\eta^2 = .003$
3 年次	4.20	0.839	627	
4 年次	4.30	0.862	577	
合計	4.23	0.823	2016	